

JForest

森と林の自然から

2019

第48号



〈編集・発行〉

最上広域森林組合

事務所：山形県最上郡真室川町大字新町字下荒川270の1

やまびこ だより



迎春

目次	新年のごあいさつ	2
	山形県再造林推進機構について	3
	特産物加工場より	4

幻想の森 -戸沢村-

最上峡一帯に分布している天然杉は、タコ足状に幹が分かれた多幹型の老杉が多いことが特徴です。この杉は太平洋側のオモテ杉に対しウラ杉と呼ばれ、地元では地名から山ノ内杉、土湯杉とも呼ばれています。

ここ最上峡には樹齢1000年を超えると思われる巨大な杉が数多く自生し、太いものは幹周りが15mもあり、枝葉が細いという特徴もあります。オモテ杉の代表として屋久杉が知られていますが、ここ最上峡の天然杉林も京都の芦生杉、富山の立山杉、隣県の秋田杉と並び最大規模と言われています。また、ブナと混交し林床にユキツバキを持つ点でも他に類例の少ない群生地です。

新年のごあいさつ

最上広域森林組合 代表理事組合長

佐藤 景一郎



謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、組合員各位に於かれましては、日頃から森林組合の活動に對しまして、深いご理解とご協力を賜りまして、改めまして感謝と敬意を表するものであります。

昨年を振り返ってみますと、一番の印象は自然災害の多さではないかと思われまふ。台風七号と梅雨前線の影響により、西日本豪雨が発生しました。また、四国、近畿地方への記録的な暴風や高潮の被害、北海道胆振地方を襲った震度七の地震や六月の大阪北部地震も記憶に新しいところでありまふ。

一方、県内でも八月の大雨による林道の崩壊や農地への被害、特に、戸沢村の蔵岡地区の水害による床上浸水など数えきれない自然災害の年でありました。

このような災害を目の当たりにすると、森林の保水能力の重要性が再認識され日頃の森林整備の重要性を実感致しました。言い換えれば、環境に對する森林の占める役割の大きさに再認識し、弛まぬ森林整備の必要性を痛感致しました。

一方、林業界の最大の関心事は、何と言つても、森林所有者の経営意欲の低下や所有者不明森林の増加等が懸念される中で、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を推進するため、森林の経営管理を市町村や意欲と能力のある民間事業者によって持続的に行う措置を内容とする「森林経営管理法」の成立が昨年の五月にあり、いよいよ、本年四月から譲与税という形でスタートするという事でありまふ。その施行にあたっては、森林組合の果たすべき役割は、今以上に求められる事になります。

組合員の皆様には、市町村から経営管理権の設定にあたって意向調査が始まりまふ。そして、自らが経営管理を行う事を希望する場合、市町村へ委託する事を希望する場合、所有者不明で回答がない場合、寄附や買い取りのなどを希望する場合の四つのいずれかを選択する事になるかと思われまふ。

森林組合は、長年にわたつて森林林業に関わる全ての事業について、組合員のために何が出来るかという事を考えながら、この法律に向き合つていかなければならないと考えておりまふ。先ずは、森林経営計画の作成が重要であり、組合員との経営委託契約に基づいて着実に森林の整備に取り

組んで参ります。

是非、所有山林に関するすべてのご相談をよろしくお願い致します。山形県に於きましては、「山形県水資源条例」や「山形県の豊かな森林資源を活用した地域活性化条例」通称、森林ノミクス推進条例の制定をし、再造林推進機構の設立によって安定供給と循環利用に道筋をつけた意義は極めて多きものと考えておりまふ。

これらの推進によって、素材生産量は、約四九万立方方となつており拡大傾向にあり、目標の六〇万立方法の達成に向けて取り組んでおりまふ。

一方、出口対策は、新庄市に大型集成材工場、真室川町に既存の大型製材所、新庄市や酒田市にバイオマス発電所が稼働し、併せてペレット工場やチップ工場が稼働するなど木材を余すところなく利用できる仕組みが構築されていくようになりまふ。

人材の育成に関しては、農林大学の第二期生が四月に卒業し各林業界に就職し、若い活力ある人材が、木材の生産に取り組むようになりまふ。しかしながら、造林事業の人材については、以前として頭の痛い状況が続いておりまふ。技術革新によって重労働である下刈り作業の軽減など各地で取り組みはあるものの現実的な効果は、いまだ確立されておらず、今後の研究に頼らざるを得ないのが現実であります。また、最近、獣被害のニュースを耳にすることが多くなりました。西日本の林業に對する獣被害の大きさを知つた時、何とか今のうちに対策を講じる事が今後の重要なポイントになると考えており、県のお力をお借りしながら具体的な対策を実施して行きたいと考えておりまふ。

同時に、スマート林業の構築は、今後、最も必要であり、ICTを活用した森林整備は、今後の林業の成長産業化を後押しする重要な鍵になるかと思ひまふ。

このように、展望と課題を抱えながらの三十一年度になります。木材が動きそれに伴つて雇用が生まれ中山間地の活性化が計られれば森林組合の地域における地位の向上になるかと思ひまふ。

我々森林組合も組合員の皆様とともに林業の再生・地域の再生に頑張つてまいる所存であります。今後ともよろしくご指導頂きますようお願いをし、組合員皆様の一層のご多幸をご祈念して年頭の挨拶と致します。

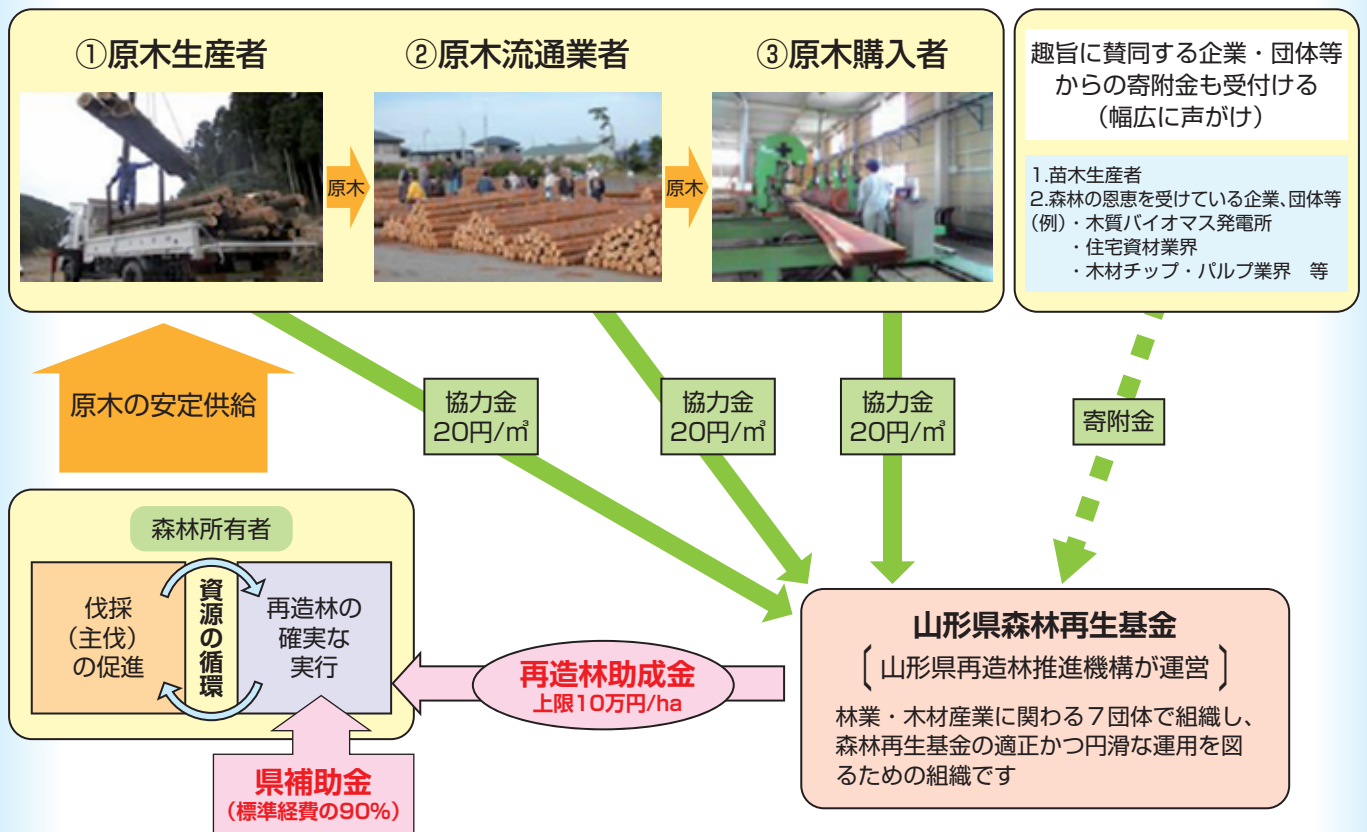


山形県再造林推進機構について

平成30年度から再造林推進機構が具体的に基金の造成と経費補助をスタートさせております。また、現場向けのルールブックにあたる「皆伐・更新施業の手引き」を作成いたしました。

県内では、特に、ここ最上地方に大型集成材工場や既存の大型製材工場、また、バイオマス発電所が稼働しており木材需要が増加しております。これに伴って木材の安定供給の意味合いからも皆伐後の再造林が大きな課題となっております。しかしながら、材価の低迷などによって再造林費用が捻出できない状況が続いておりましたが、これを、何とか所有者負担ゼロにするために民間企業が一丸となって再造林推進機構を立ち上げました。県産連・県木産協・庄司製材所・協和木材・などが会員となり同機構と協定を締結し原木の生産者、流通者、購入者から1m³あたり20円の協力金を徴収し、寄付金を合わせて再造林経費の10%造林面積1ha当り10万円を限度として助成するものであります。

つまり再造林経費の負担割合は、国費68%緑環境税12%県費10%再造林推進基金から10%の負担を行い所有者負担ゼロを目指す仕組みという事になります。



特産物加工場より

春の植菌の時期が近づいています 種駒 及び オガ菌の購入なら当組合に!!

森産業

1,000 ケ入 (9.2mm)

税込 **3,564円**

なめこ1号 晩生、なめこ2号 中生
なめこ3号 早生、しいたけ 290号



余目河村

500 ケ入 (8.5mm)

税込 **1,566円**

なめこ、しいたけ、ブナカノカ、ヒラタケ
ムキタケ、クリタケ、エノキタケ、キクラゲ
タモギタケ



※その他、大貫・日本きのこセンター等もご希望により取り寄せ可能です。
(少量の場合は送料が個人負担となる場合があります。お早めにご連絡下さい)

トンビマイタケ (余目河村)
菌床玉 6コ入 1ケース

税込 **4,320円**

マイタケ (余目河村)
原木 5本入 1ケース

税込 **5,832円**

トンビマイタケ (最上まいたけ)
菌床玉 1コ

税込 **600円**

SGサプラーⅡ



当店で取り扱っている長靴の中では一番の売れ筋商品であり、林業の現場では広く活躍している長靴です。

¥14,580 (税込)

マイティーツ



アラミド繊維を本体に使用し、高い耐切削性、耐貫通性を発揮し、とても丈夫です。
※H31.4以降値上がりになります。

¥14,796 (税込)

岩礁



とにかく軽く折れにくい長靴で長時間履いて歩いても疲れにくいのが特徴です。また、足首の部分が柔らかい為、締め具付きになっています。

¥15,811 (税込)

その他、林業用の資材も多数取り揃えています。

組合員の皆様へ

住所や氏名に変更が生じた際は、手続きが必要となりますので、当組合までご連絡下さい。

最上広域森林組合

TEL 0233(62)2102

FAX 0233(62)2953

メールアドレス soumu@mogami-morikumi.or.jp
HPアドレス mogami-morikumi.or.jp